

PlateSpin® Transformation Manager アプライアンスガイド

2016年12月

保証と著作権

保証と著作権、商標、免責事項、保証、輸出およびその他の使用制限、米国政府の規制による権利、特許に関する方針、およびFIPSコンプライアンスの詳細については、<https://www.netiq.com/company/legal/>を参照してください。

Copyright © 2016 NetIQ Corporation, a Micro Focus company. All Rights Reserved.

目次

本書およびライブラリについて	5
1 アプライアンスの概要	7
アプライアンスの利点	7
アプライアンスの要件	7
アプライアンスホストサーバ	8
アプライアンス管理コンソール	9
Transformation Manager Webインタフェース	10
PlateSpin Migrate Connector	12
2 アプライアンスのインストールと設定	13
アプライアンスのダウンロード	13
アプライアンスの展開と仮想環境の設定	13
アプライアンスの設定	15
PlateSpin Transformation Manager Serverの初回使用時の設定	17
インストール後のタスク	19
アプライアンスへの自己署名デジタル証明書の追加	19
ハードディスク2のSCSIコントローラのVMware Paravirtual SCSIへの変更	19
アプライアンス設定の表示または変更	20
Webインタフェースの設定	20
変換プロジェクトの設定	20
3 アプライアンスの管理	21
管理パスワード	22
ネットワーク	23
時刻	24
システムサービス	24
システムサービスの開始、停止、または再開	25
システムサービスの自動または手動での実行	25
システムサービスのログファイルのダウンロード	26
SSHサービスの有効化または無効化	26
デジタル証明書	27
デジタル証明書ツールの使用	27
既存の証明書とキーペアの使用	29
証明書の有効化	29
ファイアウォール	29
Gangliaの設定と監視	30
Gangliaの設定	30
アプライアンス管理コンソールのポート9443	
(セキュア)を使用したGangliaメトリックの表示	32
ポート9080 (非セキュア)を使用したGangliaメトリックの直接表示	32
ストレージ	32
/varマウント設定	33
サポート	34
フィールドパッチ	34
オンラインアップデート	35
再起動またはシャットダウン	36

Logout (ログアウト).....	37
4 PlateSpin Transformation Manager Serverの設定	39
初期設定	40
管理ユーザ	41
Webサーバ設定	42
アップグレード	42
Webインタフェースセッションのタイムアウト	43
5 Webインタフェースに対するカスタムUIテーマの設定	45
カスタムテーマの設定	45
アップグレード後のカスタムテーマのリセット	47

本書およびライブラリについて

このアプライアンスガイドでは、PlateSpin Transformation Manager Applianceの要件、初期設定、および保守について説明します。

本書の読者

このマニュアルは、この製品を使用して大規模なデータセンターの変換プロジェクトやワークロードマイグレーションプロジェクトを計画、実行および監視するデータセンターの管理者やオペレータなどのITスタッフ向けです。

ライブラリに収録されている情報

PlateSpin Transformation ManagerマニュアルのWebサイト (<https://www.netiq.com/documentation/platespin-transformation-manager-1-1/>)には、この製品のライブラリがHTML形式とPDF形式で用意されています。

その他の資料

次のオンラインリソースもご利用ください。

- [YouTube.com上のMicro Focus Workload Migration and Disaster Recoveryチャンネル](https://www.youtube.com/channel/UChuzpo3HbYpPI93icqeOzJQ) (<https://www.youtube.com/channel/UChuzpo3HbYpPI93icqeOzJQ>): 製品のWebキャスト、デモ、およびトレーニングを提供するチャンネルです。
- [PlateSpin Transformation Manager製品リソース](https://www.netiq.com/products/platespin-transformation-manager/resources/) (<https://www.netiq.com/products/platespin-transformation-manager/resources/>): ホワイトペーパーおよび他の技術情報を提供する製品Webサイトです。
- [ユーザコミュニティ](https://www.netiq.com/communities/) (<https://www.netiq.com/communities/>): さまざまなトピックについて議論するWebベースのコミュニティです。
- [サポートナレッジベース](https://www.netiq.com/support/kb/) (<https://www.netiq.com/support/kb/>): 詳しい技術情報の記事集です。

顧客サービス

製品の個々の問題については、[顧客サービス](http://www.netiq.com/support) (<http://www.netiq.com/support>)にお問い合わせください。

マニュアルのサポート

弊社の目標は、お客様のニーズを満たすマニュアルの提供です。マニュアルを改善するためのご提案がございましたら、本マニュアルのHTML版で、各ページの下にある[comment on this topic](#)をクリックしてください。Documentation-Feedback@netiq.com宛てに電子メールを送信することもできます。貴重なご意見をぜひお寄せください。

1 アプライアンスの概要

PlateSpin Transformation Manager Applianceは、変換プロジェクトのために、PlateSpin Transformation Manager Serverソフトウェア、PostgreSQLデータベースソフトウェア、およびPTMデータベースインスタンスをホストします。

- [7 ページの「アプライアンスの利点」](#)
- [7 ページの「アプライアンスの要件」](#)

アプライアンスの利点

PlateSpin Transformation Managerをアプライアンスとして使用すると、次の利点があります。

- **単純な展開。** VMware hypervisor上でアプライアンスの設定と実行の準備が行えます。オペレーティングシステムのインストール、必要なアプリケーションの設定、またはデータベースの設定を行う必要はありません。
- **優れたパフォーマンス。** このアプライアンスは、特別に調整されたバージョンのSUSE Linux Enterprise Server (SLES)オペレーティングシステム上で構築されています。このアプライアンスには、PlateSpin Transformation Managerに必要なものがすべて含まれており、他に何も用意する必要がありません。システムリソースを消費する可能性のある不要なアプリケーションやサービスは含まれていません。
- **Webベースのアプライアンス管理。** このアプライアンスには、Webベースのアプライアンス管理コンソールが備わっています。これにより、お使いの環境でアプライアンスを展開または管理するのに必要なもののみを簡単に設定することができます。基盤となっているオペレーティングシステム、ソフトウェア、またはデータベースを理解する必要はありません。

PlateSpin Transformation Managerサポートインシデントに関してテクニカルサポートに連絡すると、rootユーザとしてアプライアンス端末コンソールにアクセスすることが求められる場合があります。サポート担当者から、必要なアクションについて指示が与えられます。他に、rootアクセスやbashインタフェースに関する管理タスクはありません。

- **簡単なアップデート。** アプライアンスのアップデートは、更新されたアプライアンスバージョンのアプライアンスブートディスクを展開し、既存のデータディスクを使用することによって行います。

アプライアンスの要件

PlateSpin Transformation Manager Applianceをインストールする前に、お使いのシステムがこのセクションの要件を満たしていることを確認してください。

- [8 ページの「アプライアンスホストサーバ」](#)
- [9 ページの「アプライアンス管理コンソール」](#)
- [10 ページの「Transformation Manager Webインタフェース」](#)
- [12 ページの「PlateSpin Migrate Connector」](#)

アプライアンスホストサーバ

仮想化ホストサーバにPlateSpin Transformation Manager Appliance用のOVFファイルを展開します。

- ◆ 8 ページの「仮想化ホストサーバ」
- ◆ 8 ページの「仮想マシン」
- ◆ 9 ページの「仮想ストレージ」

仮想化ホストサーバ

PlateSpin変換は、次の仮想化ソフトウェアをサポートしています。

- ◆ **VMware ESXiバージョン5.5以降** ESXiホストには、VMwareエンタープライズライセンスが必要です。
- ◆ **VMware vSphere Client 5.x以降**。アプライアンスVM用のhypervisor環境を設定するには、このツールを使用します。

Micro Focusでは、*VMware Time Keeping Best Practices for Linux Guests (KB 1006427)* (<https://kb.vmware.com/kb/1006427>)に従って、アプライアンスおよびホストサーバに対するNTP (Network Time Protocol)を設定することをお勧めします。

仮想マシン

仮想マシンは、OVFによって作成されます。このセクションでは、VMの最小要件について説明します。

- ◆ **メモリ**: ホストサーバでは、仮想マシン用に最低4 GBのメモリを用意する必要があります。このメモリ構成はアプライアンスのデフォルト設定です。
- ◆ **プロセッサ**: ホストサーバでは、仮想マシン用に最低2つのvCPUを用意する必要があります。このプロセッサ構成はアプライアンスのデフォルト設定です。
- ◆ **IPアドレス情報**: 展開時には、アプライアンスに関する次のIPアドレス情報を指定する必要があります。
 - ◆ 静的IPアドレス
 - ◆ ネットワークマスク
 - ◆ ゲートウェイIPアドレス
 - ◆ IPアドレスに関連付けられたDNSホスト名
 - ◆ DNSサーバのIPアドレス
 - ◆ NTPサーバのIPアドレスまたはDNS名

Micro Focusでは、*VMware Time Keeping Best Practices for Linux Guests (KB 1006427)* (<https://kb.vmware.com/kb/1006427>)に従って、VMIに対するNTPを設定することをお勧めします。

仮想ストレージ

アプライアンスを展開する際には、ブートディスクとデータディスクを用意する必要があります。

- **ディスク1ブート:** アプライアンスのブートパーティションには、ゲストオペレーティングシステム、アプライアンス固有のすべてのソフトウェア、および/varディレクトリに保存されているアプライアンスシステムイベントログを含む、各種のシステムファイルが格納されています。デフォルトのサイズは20GBです。
- **ディスク2 /vastorage:** /vastorageパーティションには、PlateSpin Transformation ManagerソフトウェアとPostgreSQLデータベース、アプライアンス設定情報、およびGangliaヘルスメトリックスが格納されています。アプライアンスのインストール時にこの仮想ディスクを作成して追加する必要があります。20 GB以上のサイズが必要です。

アプライアンス管理コンソール

PlateSpin Transformation Manager Applianceに対する管理操作のほとんどは、ブラウザベースのPlateSpin Transformation Managerアプライアンス管理コンソールを通して行われます。

- [9 ページの「サポートされるWebブラウザ」](#)
- [9 ページの「サポートされている言語」](#)
- [9 ページの「ポートとファイアウォール」](#)

サポートされるWebブラウザ

PlateSpin Transformation Managerは、アプライアンス管理コンソール用に次のWebブラウザをサポートしています。

- Google Chrome (最新バージョン)
- Microsoft Internet Explorer 11
- Mozilla Firefox (最新バージョン)

注: JavaScript (アクティブスクリプト)がWebブラウザで有効になっている必要があります。

サポートされている言語

アプライアンス管理コンソールは、Webブラウザで英語(En)と日本語(Ja)をサポートしています。言語の設定はWebブラウザで変更できます。リストの一番上にある言語が優先されます。翻訳されたオンラインヘルプについては、www.netiq.comで言語設定も行い、クッキーを許可してください。

ポートとファイアウォール

PlateSpin Transformation Managerの通信では、以下のポートが使用されます。デフォルトでは表に示すように、これらのポートはアプライアンスに対して開いています。PlateSpin Transformation Manager Applianceと、アプライアンスへのアクセスに使用するコンピュータとの間にあるネットワーク上のすべてのファイアウォールで、以下のポートが開いていることを確認してください。

表 1-1 アプライアンス管理用の通信ポート

コンポーネント	ポート	説明
アプライアンス管理コンソール	9443 (HTTPS、セキュア SSL)	アプライアンスをセキュアに管理するには、このポートを使用します。
Transformation Manager データベース (PostgreSQL)	5432	アプライアンスに対してリモート PostgreSQL データベースを設定する場合、リモートデータベースにアクセスするために PTM でこのポートが使用されます。PostgreSQL では、TCP の着信と発信のトラフィックが許可されます。トラフィックのセキュリティを保護するには、リモート PostgreSQL サーバの postgresql.conf ファイルで SSL を有効にします。 アプライアンスに PostgreSQL がインストールされている場合、このポートはデフォルトで閉じられています。
SSH	22	SSH を使用すると、VMware クライアントを使用せずに、アプライアンスにリモートでアクセスして、起動、停止、または再起動することができます。 SSH はデフォルトでは無効になっています。詳細については、25 ページの「システムサービスの開始、停止、または再開」を参照してください。
Ganglia	8649 (セキュア、デフォルト) 9080 (非セキュア)	Ganglia gmond デモンでは、通信に UDP ポート 8649 が使用されます。 gmetad デモンでは、メトリクスデータに TCP ポート 8649 が使用されます。 ポート 9080 を有効にすると、Ganglia モニタリング情報への匿名アクセスが可能になります。詳細については、32 ページの「ポート 9080 (非セキュア) を使用した Ganglia メトリックの直接表示」を参照してください。

Transformation Manager Web インタフェース

PlateSpin Transformation Manager サーバソフトウェアは、アプライアンスに自動的にインストールされます。PlateSpin Transformation Manager Server に対するユーザ操作は、ブラウザベースの PlateSpin Transformation Manager Web インタフェースを通して行われます。

- [11 ページの「サポートされる Web ブラウザ」](#)
- [11 ページの「サポートされている言語」](#)
- [11 ページの「ポートとファイアウォール」](#)

サポートされるWebブラウザ

PlateSpin Transformation Managerは、PlateSpin Server Webインタフェースに対して次のWebブラウザをサポートしています。

- ◆ Google Chrome (最新バージョン)
- ◆ Microsoft Internet Explorer 11
- ◆ Mozilla Firefox (最新バージョン)

注: JavaScript (アクティブスクリプト)がWebブラウザで有効になっている必要があります。

サポートされている言語

Webインタフェースは、ご使用のWebブラウザで英語(En)および日本語(Ja)をサポートしています。言語の設定はWebブラウザで変更できます。リストの一番上にある言語が優先されます。

ポートとファイアウォール

PlateSpin Transformation Managerの通信では、PlateSpin Transformation Manager Serverに次のポートが使用されます。デフォルトでは表に示すように、これらのポートはアプライアンスに対して開いています。PlateSpin Transformation Manager Applianceと、PlateSpin Transformation Manager Serverへのアクセスに使用するコンピュータとの間にあるネットワーク上のすべてのファイアウォールで、以下のポートが開いていることを確認してください。

表 1-2 Transformation Manager Web インタフェース用の通信ポート

コンポーネント	ポート	説明
Webインタフェース	8183 (HTTPS、セキュア SSL)	デフォルトでは、ポート8183が有効になっています。TCPの着信と発信のトラフィックが許可されます。
	8182 (HTTP、非セキュア)	注: Micro Focusでは、WebインタフェースへのアクセスにはセキュアなポートおよびSSLのオプションを使用することをお勧めします。 セキュリティ上の理由のため、デフォルトではポート8182は無効になっています。このポートを有効にすると、TCPの着信と発信のトラフィックが許可されます。

表 1-3では、検出および自動マイグレーションのメッセージングに必要なプロトコルとポートを示しています。これらのメッセージには、イベントと状態変更が反映されていますが、機密情報は含まれていません。

表 1-3 ネットワークプロトコルおよびポートのイベントメッセージング要件

トラフィック	ネットワークプロトコルおよびポート	その他の要件
イベントメッセージング	61613 TCP、着信 (非セキュア)	Transformation Managerアプライアンス上では、このポートはデフォルトで開いています。 自動マイグレーションの場合、プロジェクトに割り当てられているPlateSpin Migrateサーバ上でこのポートを開きます。

PlateSpin Migrate Connector

PlateSpin Migrate Connectorのインスタンスは、アプライアンス上のPlateSpin Transformation Managerサーバと連携するように自動的にインストールされ、設定されます。PlateSpin Migrate Connectorに対するユーザ操作は、アプライアンス上の設定ファイルとPlateSpin Transformation Manager Webインタフェースのグローバル設定を通して行われます。『[PlateSpin Migrate Connector クイックスタート](#)』の「[PlateSpin Migrate Connectorの設定](#)」を参照してください。

2 アプライアンスのインストールと設定

PlateSpin Transformation Managerは、VMware仮想化ホストで展開するアプライアンスとして配布されます。このアプライアンスには、PlateSpin Transformation Manager ServerソフトウェアとPostgreSQLデータベースが含まれています。

- [13 ページの「アプライアンスのダウンロード」](#)
- [13 ページの「アプライアンスの展開と仮想環境の設定」](#)
- [15 ページの「アプライアンスの設定」](#)
- [17 ページの「PlateSpin Transformation Manager Serverの初回使用時の設定」](#)
- [19 ページの「インストール後のタスク」](#)

アプライアンスのダウンロード

- 1 次の[NetIQ Downloads \(https://dl.netiq.com\)](https://dl.netiq.com)サイトから PlateSpin Transformation Manager Applianceファイルをダウンロードします。
PlatespinTM.x86_64-1.1.0.xxx.ovf.zip、ここでxxxはビルド番号を表します。
- 2 管理ワークステーションでPlatespinTM.x86_64-1.1.0.xxx.ovf.zipファイルを抽出します。これにより、PlateSpinTM-versionファイルフォルダが表示されます。
サードパーティの展開ツールを使用してファイルを展開します。デフォルトのWindows展開ツールは使用しないでください。
- 3 アプライアンスを実行する仮想化ホストサーバを設定します。[13 ページの「アプライアンスの展開と仮想環境の設定」](#)に進みます。

アプライアンスの展開と仮想環境の設定

このセクションの指示に従って、アプライアンス用のVMwareホストサーバを準備します。開始する前に、[7 ページの「アプライアンスの要件」](#)の内容を理解しておいてください。

- 1 VMwareホストサーバで、次のようにアプライアンスを展開してください。
 - 1a vSphereクライアントで、**File (ファイル)>Deploy OVF Template (OVFテンプレートの展開)**の順にクリックします。
使用している仮想化ソフトウェアが.ovfをサポートしていない場合は、VMware Webサイトで入手可能なVMware OVFツールを使用して.ovfファイルを.vmxに変換する必要があります。
 - 1b PlateSpinTM-versionファイル・フォルダで.ovfファイルを参照および選択して、**次へ**をクリックします。
 - 1c 選択した内容を確認して、**次へ**をクリックします。
 - 1d **Name (名前)**フィールドで、アプライアンスの名前を任意の名前に変更して、**次へ**をクリックします。

- 1e 仮想マシンファイルを保存するデータストア(ハードディスク1、ブートパーティション)を選択して、**次へ**をクリックします。
- 1f デフォルトのディスクフォーマット設定を確認し、**次へ**をクリックして、設定を受け入れます。
- 1g **完了**をクリックします。
- 2 vSphereクライアントで、アプライアンス用に別のVMwareハードディスク(ハードディスク2)を作成します。
このハードディスクには、PlateSpin Transformation Managerのファイルが保存されます。また、アプライアンスのアップグレードに使用される環境設定ファイルも保存されます。
- 2a vSphereクライアントで、仮想マシンを設定する仮想化ホストを選択し、[Virtual Machines (仮想マシン)] タブをクリックします。
- 2b セカンダリストレージを作成する、作成済みの仮想マシンを右クリックして、**Edit Settings (設定の編集)**をクリックします。
- 2c [Virtual Machine Properties (仮想マシンのプロパティ)] で、**Add (追加)**をクリックします。
- 2d [Add Hardware (ハードウェアの追加)] ウィザードで、ハードディスクを設定します。

ページ	アクション
デバイスタイプ	1. ハードディスク をクリックして、 次へ をクリックします。
ディスクの選択	1. Create a new virtual disk (新しい仮想ディスクの作成) を選択して、 次へ をクリックします。
ディスクの作成	1. Capacity (容量)セクションで、割り当てるハードディスクの容量を指定します。 ディスク容量の最小要件については、ディスク2 /vastorageを参照してください。 2. Disk Provisioning (ディスクプロビジョニング)セクションで、実行するVMwareのバージョンに応じて、次のディスクフォーマットのいずれかを選択します。 ◆ シックプロビジョニング (Eager Zeroed) ◆ クラスタリング機能のサポート (耐障害性など) 3. Location (場所)セクションで、Specify a datastore or datastore cluster (データストアまたはデータストアクラスターを指定)を選択して、Browse (参照)をクリックし、データストアを選択してから、OKをクリックします。 4. 次へをクリックします。

ページ	アクション
詳細オプション	1. Virtual Device Node (仮想デバイスノード)セクションで、ドロップダウンリストからSCSI (1:0)を選択します。 注: インストールプロセスのこの時点で、コントローラをVMware Paravirtualに変更しないでください。インストール後のタスクとして、オプションでこの設定を変更することができます。詳細については、19 ページの「ハードディスク2のSCSIコントローラのVMware Paravirtual SCSIへの変更」を参照してください。 2. Mode (モード)セクションで、Independent (独立)およびPersistent (永続)を選択します。 これらの設定により、アプライアンスのアップデートが可能になります。 3. 次へをクリックします。
Summary (概要)	1. 新しいハードディスクに対して設定した仕様を確認して、完了をクリックします。

3 VMwareがアプライアンスに対して割り当てているメモリの量を増やします。

3a [Virtual Machine Properties (仮想マシンのプロパティ)] ウィンドウで、**Memory (メモリ)**を選択し、設定を環境に適したサイズに増やします。

3b **OK**をクリックして、[Virtual Machine Properties (仮想マシンのプロパティ)] ウィンドウを終了します。

4 (オプション) 仮想マシンハードウェアのバージョンを、お使いのインフラストラクチャでサポートできる最新のものにアップグレードします。アップグレードするには、vSphereクライアントで、ハードウェアをアップグレードする作成済みの仮想マシンを右クリックして、**Upgrade Virtual Hardware (仮想ハードウェアのアップグレード)**をクリックします。

5 アプライアンス(仮想マシン)の電源をオンにします。

6 (オプション) ホストサーバにVMwareツールをインストールします。

7 [15 ページの「アプライアンスの設定」](#)に進みます。

アプライアンスの設定

アプライアンスをダウンロードして、仮想環境に仮想マシンを正常に展開したら、アプライアンスの設定準備完了です。

1 vSphereクライアントで、アプライアンスの電源をオンにします。

2 **Console (コンソール)**タブをクリックします。

3 アプライアンスの起動後、**Keyboard Language (キーボード言語)**ドロップダウンで希望するキーボードレイアウトを選択してから、使用許諾契約を受け入れます。

4 [Passwords and Time Zone (パスワードとタイムゾーン)] ページで、次のアプライアンス情報を指定します。

オプション	アクション
rootのパスワード	アプライアンスに設定するrootユーザパスワードを入力してから、再度確認入力します。
vaadminのパスワード	アプライアンスに設定するvaadminユーザパスワードを入力してから、再度確認入力します。 vaadminユーザは、アプライアンスにログインするときに使用する優先される識別情報です。vaadminユーザ名は大文字小文字が区別され、すべて小文字を使用する必要があります。
NTPサーバ	信頼性の高い外部のNTP (Network Time Protocol)サーバのIPアドレスまたはDNS名を入力します。たとえば、time.example.comを入力します。 最適な結果を得るために、VMware Timekeeping Best Practices for Linux Guests (http://kb.vmware.com/selfservice/microsites/search.do?language=en_US&cmd=displayKC&externalId=1006427)に従ってNTPを設定してください。
地域	地域を指定しします。
タイムゾーン	ローカルのタイムゾーンを指定します。

5 **次へ**をクリックします。

6 [Network Configuration (ネットワーク設定)] ページで、次のネットワーク情報を指定します。

オプション	アクション
ホスト名	アプライアンスのIPアドレスに関連付けられた完全修飾DNSホスト名を入力します。たとえば、ptm.example.comと入力します。
IPアドレス	アプライアンスの静的IPアドレスを入力します。たとえば、10.10.10.10と入力します。
ネットワークマスク	アプライアンスのIPアドレスに関連付けられたネットワークマスクを入力します。たとえば、255.255.255.0と入力します。
ゲートウェイ	アプライアンスが存在するサブネット上のゲートウェイのIPアドレスを入力します。たとえば、10.10.10.254と入力します。
DNSサーバ	ネットワークのプライマリDNSサーバのIPアドレスを入力します。たとえば、10.10.10.1と入力します。セカンダリDNSサーバはオプションです。
ドメイン検索	ホスト名設定に関連付けられているドメインを入力します。

7 **次へ**をクリックします。

8 ハードディスク2のハードドライブを選択します。

/vastorageに対して作成したハードディスク2は自動的に検出され、**sdb**がハードドライブとして表示されます。このページで他のオプションに対するデフォルト値を受け入れてから、**次へ**をクリックします。

9 [設定] をクリックします。

インストールが成功したことを示すメッセージが表示されます。端末のプロンプトでログインしないでください。アプライアンス管理では、アプライアンス管理コンソールでのアプライアンスの設定が必要になります。ネイティブのLinuxツールを使用すると、サービスが中断したり失敗する場合があります。

10 17 ページの「PlateSpin Transformation Manager Serverの初回使用時の設定」に進みます。

PlateSpin Transformation Manager Serverの初回使用時の設定

PlateSpin Transformation Manager Applianceをインストールして、そのネットワークを設定すると、PlateSpin Transformation Manager Serverの初回使用時の設定準備が完了します。この設定プロセスでは、クイックウィザードを使用してシステムを起動して稼働させます。このとき、19 ページの「インストール後のタスク」の説明に従って、追加の設定に関する決定を行うことができます。

PlateSpin Transformation Manager Serverを設定するには、次の手順を実行します。

- 1 15 ページの「アプライアンスの設定」の説明に従ってアプライアンスをインストールしたら、Webブラウザから次のURLに移動します。

`https://ip_address_or_DNS_name:9443`

アプライアンスのインストール時に指定したサーバのIPアドレスまたはDNS名を使用します。

- 2 設定したvaadminユーザとパスワードを使用して、アプライアンスにログインします。

設定がまだ済んでいない場合やアップデートが必要であることが検出された場合、[PlateSpin Transformation Manager Server Initial Server Configuration (PlateSpin Transformation Manager Server初期サーバ設定)] ページに直接移動します。この場合、ステップ 3を省略します。

- 3 Server Configuration(サーバ設定)アイコンをクリックします。
- 4 [Initial Server Configuration (初期サーバ設定)] ページで、次の情報をすべて入力し、Submit (送信)をクリックします。

4a PostgreSQLデータベース接続

次のいずれかのオプションを使用します。

- ♦ **ローカルデータベース:** PlateSpin Transformation Managerにより、自動的にアプライアンスにPostgreSQLデータベースがプレインストールされます。Auto Setup Local Database (ローカルデータベースの自動設定)を選択すると、データベースインスタンス、データベース管理者ユーザ、およびユーザのパスワードが自動的に作成されます。表 2-1にデフォルト設定を示します。

表2-1 PostgreSQL データベースのデフォルト値

パラメータ	デフォルト値
データベースホスト	localhost
データベースポート	5432
Create a New Database (新しいデータベースの作成)	Selected(選択済み)
データベース名	transmgr
データベースユーザ名	tadmin

- ◆ **リモートデータベース:** もう1つの方法として、ネットワーク内の既存の PostgreSQL データベース上でデータベースインスタンスとして PlateSpin Transformation Manager データベースを設定することもできます。
 1. **Auto Setup Local Database (ローカルデータベースの自動設定)** を選択解除します。
 2. localhost を、リモート PostgreSQL データベースに対するホストサーバの DNS 名または IP アドレスに置き換えて、PostgreSQL ポートを指定します。
 3. PlateSpin Transformation Manager データベースのインスタンスを新規作成するのに必要なスキーマ権限を持っている、データベース管理者ユーザの資格情報を指定します。
 4. PlateSpin Transformation Manager データベースインスタンスの名前を指定します(デフォルト: transmgr)。
 5. PlateSpin Transformation Manager データベースインスタンスに対する管理者ユーザ(デフォルト: tadmin)として作成される、データベースユーザのユーザ名とパスワードを指定します。

4b 初期ユーザ設定

PlateSpin Transformation Manager Server の初期ユーザは、Web インタフェース全体の設定と管理に対するすべての権限を持っている、システム管理者です。

フルネーム、PlateSpin Transformation Manager 環境に対して一意の有効な電子メールアドレス、およびこのユーザのパスワードを指定します。

このユーザをアプライアンス管理コンソールから削除することはできません。初期ユーザアカウントを差し替えたり増やすことが必要になる場合は、PlateSpin Transformation Manager に対して別のシステム管理者ユーザを追加することができます。[管理ユーザ](#)を参照してください。

注: 他のユーザの追加や管理は、PlateSpin Transformation Manager Web インタフェースの [Users (ユーザ)] ページで行います。『[PlateSpin Transformation Manager ユーザガイド](#)』の「[ユーザの管理](#)」を参照してください。

4c Webサーバ設定

Micro Focus では、Web インタフェースへのアクセスにはセキュアなポート 8183 および SSL のオプションを使用することをお勧めします。HTTP ポート 8182 を有効にしたり、無効にして非セキュアなトラフィックを許可することができます。

PlateSpin Transformation Manager Server に対して DNS 名を指定します。アプライアンスの SSL 証明書の件名として使用される DNS アドレスが自動的に入力されます。

5 設定が正常に完了したら、次のいずれかのオプションを選択して、[19 ページの「インストール後のタスク」](#)に進みます。

- ◆ **Appliance Home (アプライアンスホーム):** アプライアンスの設定を表示したり、設定を行います。詳細については、[20 ページの「アプライアンス設定の表示または変更」](#)を参照してください。
- ◆ **Add Certificate(証明書の追加):** アプライアンスの署名済みSSL証明書を追加します。詳細については、[19 ページの「アプライアンスへの自己署名デジタル証明書の追加」](#)を参照してください。
- ◆ **Launch PlateSpin Transformation Manager Web Console (PlateSpin Transformation Manager Webコンソールの起動):** Webインタフェースを開いて、PTMソフトウェアを設定したり、変換プロジェクトを設定します。次を参照してください。
 - ◆ [20 ページの「Webインタフェースの設定」](#)
 - ◆ [20 ページの「変換プロジェクトの設定」](#)

インストール後のタスク

アプライアンスを設定したら、次のインストール後のタスクを実行します。

- ◆ [19 ページの「アプライアンスへの自己署名デジタル証明書の追加」](#)
- ◆ [19 ページの「ハードディスク2のSCSIコントローラのVMware Paravirtual SCSIへの変更」](#)
- ◆ [20 ページの「アプライアンス設定の表示または変更」](#)
- ◆ [20 ページの「Webインタフェースの設定」](#)
- ◆ [20 ページの「変換プロジェクトの設定」](#)

アプライアンスへの自己署名デジタル証明書の追加

アプライアンスには、自己署名デジタル証明書が付属しています。この証明書は、アプライアンス(ポート9443)とPlateSpin Transformation Managerソフトウェア(ポート8182および8183)の両方に対して有効です。

注: この設定タスクはオプションです。セキュリティを強化するために、Micro Focusでは、VeriSignやEquifaxなどの信頼された認証局(CA)によって署名された、信頼されたサーバ証明書を使用することをお勧めします。

独自の既存の署名された証明書を使用したり、アプライアンス上のデジタル証明書ツールを使用して、信頼された認証局で署名を行い、アプライアンスに追加することもできます。詳細については、[27 ページの「デジタル証明書」](#)を参照してください。

ハードディスク2のSCSIコントローラのVMware Paravirtual SCSIへの変更

ハードディスク2についてはオプションで、ハードディスク2のSCSIコントローラを**VMware Paravirtual (PVSCSI)**に変更することができます。

注: この設定タスクはオプションです。

- 1 インストールの完了後、アプライアンスの電源をオンにします。
- 2 システムが実行されていることを確認します。アプライアンスvaadminユーザとしてログインし、アプライアンスとサービスのヘルスを確認します。
- 3 アプライアンスをシャットダウンします。
- 4 VMwareで、ハードディスク2のSCSIコントローラを**VMware Paravirtual**に変更します。
- 5 アプライアンスの電源をオンにします。

アプライアンス設定の表示または変更

アプライアンスの初回使用時の設定が完了すると、[Appliance System Configuration (アプライアンスシステム設定)] ページで設定を表示したり変更することができます。詳細については、[21ページの第3章「アプライアンスの管理」](#)を参照してください。

Webインタフェースの設定

PlateSpin Transformation Manager Webインタフェースを使用して、ソフトウェアの設定および管理を行います。『[PlateSpin Transformation Manager ユーザガイド](#)』で、次の内容を参照してください。

- ♦ 「[Webインタフェースへのアクセス](#)」
- ♦ 「[ライセンスの管理](#)」
- ♦ 「[オペレーティングシステムの設定](#)」

変換プロジェクトの設定

PlateSpin Transformation Manager Webインタフェースを使用して、変換プロジェクトの計画、管理、および実行を行います。『[PlateSpin Transformation Manager ユーザガイド](#)』で、次の内容を参照してください。

- ♦ 「[ユーザ](#)」
- ♦ 「[計画](#)」
- ♦ 「[ワークロード](#)」
- ♦ 「[リソース](#)」

3 アプライアンスの管理

PlateSpin Transformation Manager Applianceは、PlateSpin Transformation Manager Serverおよびそのデータベースをホストする仮想マシンです。アプライアンス管理コンソールを使用して、アプライアンスの特定の設定(vaadminユーザやrootユーザの管理パスワード、ネットワークの設定、証明書の設定など)を変更することができます。これらのタスクはコンソールからのみ行う必要があります。なぜなら、ネイティブのLinuxツールは、PlateSpin Transformation Managerサービスの設定の要件や依存関係を認識していないからです。

アプライアンス管理コンソールにアクセスするには、次の手順を実行します。

- 1 Webブラウザで、ポート番号9443のアプライアンスに対してDNS名またはIPアドレスを指定します。次に例を示します。

`https://10.10.10.1:9443`

または

`https://ptm.example.com:9443`

- 2 アプライアンスの管理ユーザ名とパスワードを指定し、**Sign in (サインイン)**をクリックします。デフォルトのユーザは、vaadminまたはrootです。
- 3 (条件付き)アプライアンス管理コンソールでは、規定された条件が検出されると、次のPlateSpin Transformation Managerのオプションのいずれかが自動的に表示されます。
 - ◆ **初期設定:** PlateSpin Transformation Manager Serverの設定が行われていない場合には、**初期設定**ツールが起動されます。アプライアンスまたはPlateSpin Transformation Manager Serverを管理するには、初期設定を完了する必要があります。
 - ◆ **アップグレード:** PlateSpin Transformation Manager用のRPMファイルまたはゲストオペレーティングシステムがアップグレードされている場合には、**アップグレード**ツールが起動されます。アプライアンスまたはPlateSpin Transformation Manager Serverを管理するには、アップグレードを完了する必要があります。
- 4 アプライアンス設定ツールの使用を続けます。

[Appliance System Configuration (アプライアンスシステム設定)] ページには、次のオプションが表示されます。

- ◆ [22 ページの「管理パスワード」](#)
- ◆ [23 ページの「ネットワーク」](#)
- ◆ [24 ページの「時刻」](#)
- ◆ [24 ページの「システムサービス」](#)
- ◆ [27 ページの「デジタル証明書」](#)
- ◆ [29 ページの「ファイアウォール」](#)
- ◆ [30 ページの「Gangliaの設定と監視」](#)
- ◆ [32 ページの「ストレージ」](#)
- ◆ [33 ページの「/varマウント設定」](#)
- ◆ [34 ページの「サポート」](#)

- [34 ページの「フィールドパッチ」](#)
- [35 ページの「オンラインアップデート」](#)
- [36 ページの「再起動またはシャットダウン」](#)
- [37 ページの「Logout \(ログアウト\)」](#)

管理パスワード

アプライアンス管理者(vadminユーザおよびrootユーザ)のパスワードやSSHアクセスパーミッションを変更するには、管理パスワードツールを使用します。パスワードポリシーに合わせたり、アプライアンス管理の責任を別のユーザに再割り当てするために、定期的にパスワードの変更が必要になる場合があります。



vadminユーザは、[管理パスワード] ページを使用して次のタスクを実行することができます。

- vadminユーザのパスワードの変更。パスワードを変更するには、古いパスワードを指定できる必要があります。
- vadminユーザには、VMwareクライアントを使用する代わりに、SSHを使用してアプライアンスにリモートでアクセスするのに必要な許可が自動的に与えられます。SSHアクセスを許可するには、SSHサービスが有効化され実行されている必要があります。

注: デフォルトでは、SSHサービスは無効化されており、実行されていません。アプライアンスでSSHを起動する方法の詳細については、[24 ページの「システムサービス」](#)を参照してください。

rootユーザは、[管理パスワード] ページを使用して次のタスクを実行することができます。

- rootユーザのパスワードの変更。パスワードを変更するには、古いパスワードを指定できる必要があります。
- アプライアンスに対するrootユーザSSHアクセスの有効化または無効化(デフォルト)。
このオプションをオンにすると、rootユーザがアプライアンスにSSHでアクセスできるようになります。このオプションをオフにすると、vadminユーザのみがアプライアンスにSSH接続することができ、rootユーザはsshdサービスが実行されている場合でもSSH接続することはできません。

vadminユーザとして管理アクセスを管理するには、次の手順を実行します。

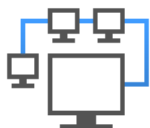
- 1 アプライアンス管理コンソールにvadminユーザとして[ログイン](#)します。
- 2 **管理パスワード**  をクリックします。
- 3 vadmin管理者の新しいパスワードを指定します。現在のvadminパスワードも指定する必要があります。
- 4 **[OK]** をクリックします。

rootユーザとして管理アクセスを管理するには、次の手順を実行します。

- 1 アプライアンス管理コンソールにrootユーザとしてログインします。
- 2 管理パスワード  をクリックします。
- 3 root管理者の新しいパスワードを指定します。現在のrootパスワードも指定する必要があります。
- 4 (オプション)Allow root access to SSH (SSHへのrootアクセスを許可)をオン/オフにします。デフォルトではオフになっています。
- 5 [OK] をクリックします。

ネットワーク

ネットワークツールを使用して、アプライアンスに対するDNSサーバ、検索ドメイン、ゲートウェイ、およびNICの設定を行います。初期設定の後、アプライアンスVMを新しいホストサーバに移動したり、ホストサーバをネットワーク環境内の新しいドメインに移動する場合、これらの設定の変更が必要になることがあります。オプションで、アプライアンスへのアクセスを許可するネットワークを制限することもできます。



アプライアンスに対するネットワークを設定するには、次の手順を実行します。

- 1 アプライアンス管理コンソールにvaadminユーザとしてログインします。
- 2 ネットワーク  をクリックします。
- 3 DNS Configuration (DNS設定)セクションでは、アプライアンスネットワークに対するDNSネームサーバ、検索ドメイン、およびゲートウェイの設定を変更することができます。
Search Domains (検索ドメイン)フィールドが空白の場合、アプライアンスのホスト名のドメインが自動的に入力されます。たとえば、アプライアンスのホスト名がptm.mycompany.comの場合は、mycompany.comがドメインに自動入力されます。
- 4 NIC Configuration (NIC設定)セクションでは、アプライアンスに関連付けられたNICのIPアドレス、ホスト名、およびネットワークマスクを変更することができます。
 - 4a NICのIDをクリックします。
 - 4b 選択したNICに対するIPアドレス、ホスト名、またはネットワークマスクを編集します。
 - 4c [OK] をクリックします。
 - 4d 設定するNICごとにこれらの手順を繰り返します。

5 (オプション) **Appliance Administration UI (port 9443) Access Restrictions (アプライアンス管理UI (ポート9443)アクセス制限)**セクションで、次のいずれかを実行します。

- ◆ アプライアンスへのアクセスを許可する各ネットワークのIPアドレスを指定します。リストに記載されたネットワークのみが許可されます。
- ◆ すべてのネットワークに対してアプライアンスへのアクセスを許可するには、このセクションを空白のままにします。

注: アプライアンスを設定した後、アプライアンスネットワーク環境に加えた変更は、アプライアンスの通信に影響を与える可能性があります。

6 **OK**をクリックします。

時刻

時刻ツールを使用して、Network Time Protocol (NTP)サーバ、地理的地域、およびアプライアンスを展開した場所のタイムゾーンを設定します。



アプライアンスの時刻パラメータ設定するには、次の手順を実行します。

1 アプライアンス管理コンソールにvaadminユーザとして[ログイン](#)します。

2 **時刻**  をクリックします。

3 必要に応じて、次の時刻設定オプションを変更します。

NTP Server (NTPサーバ): 時刻の同期に使用するNTPサーバを指定します。

地域: アプライアンスが配置されている場所の地理的地域を選択します。

タイムゾーン: アプライアンスが配置されている場所のタイムゾーンを選択します。

4 **[OK]** をクリックします。

システムサービス

システムサービスツールを使用して、アプライアンスで実行されているサービスの状態や、サービスのパフォーマンスを表示します。システムサービスには次のものが含まれています。

- ◆ SSH
- ◆ Jetty
- ◆ PostgreSQL
- ◆ PlateSpin Transformation Manager
- ◆ PTM用のPlateSpin Migrate Connector



[システムサービス] ページにアクセスするには、次の手順を実行します。

- 1 アプライアンス管理コンソールにvaadminユーザとして[ログイン](#)します。
- 2 [システムサービス 

次のアクションを実行できます。

- 25 ページの「システムサービスの開始、停止、または再開」
- 25 ページの「システムサービスの自動または手動での実行」
- 26 ページの「システムサービスのログファイルのダウンロード」
- 26 ページの「SSHサービスの有効化または無効化」

システムサービスの開始、停止、または再開

SSH、Jetty、PostgreSQL、またはPlateSpin Transformation Managerの各サービスを開始、停止、または再開することができます。

たとえば、PTMWebインタフェースのカスタムテーマを作成する場合、設定プロセスの一環として、SSHの有効化と無効化およびPlateSpin Transformation Managerの再開を行います。

アプライアンスでサービスを開始、停止、または再開するには、次の手順を実行します。

- 1 [システムサービス - 2 開始、停止、または再開するサービスを選択します。
- 3 [アクション](#)をクリックし、[開始](#)、[停止](#)、または[再開](#)を選択します。
- 4 [閉じる](#)をクリックして、システムサービスを終了します。

システムサービスの自動または手動での実行

- 1 [システムサービス - 2 自動または手動で実行するサービスを選択します。
- 3 [オプション](#)をクリックし、[自動](#)として設定または[手動](#)として設定を選択します。
- 4 [閉じる](#)をクリックして、システムサービスを終了します。

システムサービスのログファイルのダウンロード

Webインタフェースで問題が発生した場合、ログファイルをダウンロードして、テクニカルサポートに送信することが必要になる場合があります。

- 1 **システムサービス**  をクリックします。
- 2 **Log Files (ログファイル)**列で、該当するサービスの**download (ダウンロード)**リンクをクリックし、ログファイルを管理ワークステーションにダウンロードします。
SSH: アプライアンス上で実行されているSSHサービスには、ダウンロードに関連するログファイルはありません。
Jetty: jetty.stderout.logファイルをダウンロードします。
PostgreSQL: PlateSpin Transformation Manager製品に対するデータベースには、ダウンロードに関連するログファイルはありません。
PlateSpin Transformation Manager: 次のログファイルを収集、zip圧縮、およびダウンロードします。
 - ◆ tm_server.log
 - ◆ platespin-transformmgr.out
 - ◆ platespin_transformmgr_config.log**PTM用のPlateSpin Migrate Connector:** 次のログファイルを収集、zip圧縮、およびダウンロードします。
 - ◆ migrate_connector.log
 - ◆ platespin-migrate-connector.out
- 3 **閉じる**をクリックして、システムサービスを終了します。

SSHサービスの有効化または無効化

アプライアンスVM上でSSHサービスを有効化するには、次の手順を実行します。

- 1 vaadminユーザとしてアプライアンス管理コンソールにログインし、**システムサービス**をクリックします。
- 2 SSHサービスを選択します。
- 3 **アクション > 開始**の順に選択します。
- 4 **オプション**をクリックし、**自動**として設定または**手動**として設定を選択します。
- 5 **閉じる**をクリックして、システムサービスを終了します。
- 6 アプライアンス管理コンソールからログアウトし、Webブラウザを閉じます。
- 7 コンピュータからSSHセッションを開始し、vaadminユーザまたはrootユーザとしてユーザアプライアンスにログインします。

アプライアンスVM上でSSHサービスを無効化するには、次の手順を実行します。

- 1 オープンなSSHセッションを終了します。
- 2 vaadminユーザとしてアプライアンス管理コンソールにログインし、**システムサービス**をクリックします。
- 3 SSHサービスを選択します。

- 4 アクション> 中止の順に選択します。
- 5 閉じるをクリックして、システムサービスを終了します。
- 6 アプライアンス管理コンソールからログアウトし、Webブラウザを閉じます。

デジタル証明書

デジタル証明書ツールを使用して、アプライアンスに対する証明書を追加し、有効化します。デジタル証明書ツールを使用して独自の証明書を作成してからCAで署名したり、使用したい既存の証明書とキーペアがある場合はそれらを使用することができます。



注: アプライアンスには、自己署名デジタル証明書が付属しています。Micro Focusでは、この自己署名証明書を使用する代わりに、VeriSignやEquifaxなどの信頼された認証局(CA)によって署名された、信頼されたサーバ証明書を使用することをお勧めします。

この証明書は、アプライアンス(ポート 9443)とPlateSpin Transformation Manager Webインタフェース(ポート 8182および8183)の両方に対して有効です。ソフトウェアのアップデート時に、証明書を更新する必要はありません。

アプライアンスに対するデジタル証明書を変更するには、次のセクションの内容を一通り理解する必要があります。

- ◆ 27 ページの「デジタル証明書ツールの使用」
- ◆ 29 ページの「既存の証明書とキーペアの使用」
- ◆ 29 ページの「証明書の有効化」

デジタル証明書ツールの使用

- ◆ 27 ページの「自己署名証明書の新規作成」
- ◆ 28 ページの「正式に署名された証明書の取得」

自己署名証明書の新規作成

- 1 アプライアンス管理コンソールにvaadminユーザとして[ログイン](#)します。
- 2 デジタル証明書  をクリックします。
- 3 Key Store (キーストア) ドロップダウンリストで、**Web Application Certificates (Webアプリケーション証明書)**が選択されていることを確認します。

- 4 **File (ファイル) > New Certificate (Key Pair) (新規証明書 (キーペア))**の順にクリックして、次の情報を指定します。

4a 全般

別名: この証明書を識別および管理するために使用する名前を指定します。

有効期間 (日数): 証明書の有効期間の長さを指定します。

4b アルゴリズムの詳細

キーのアルゴリズム: **RSA**または**DSA**を選択します。

キーのサイズ: 希望するキーのサイズを選択します。

署名アルゴリズム: 希望する署名アルゴリズムを選択します。

4c 所有者情報

一般名(CN): ブラウザがSSL通信のために証明書を受諾できるよう、この名前はURLに含まれるサーバ名に一致する必要があります。

部門(OU): (オプション) 部門や部署などの、小規模な組織の名前。たとえば、購買部。

組織(O): (オプション) 大規模な組織の名前。たとえば、Micro Focus。

市町村または地域(L): (オプション) 市町村名。たとえば、Provo。

都道府県(ST): (オプション) 都道府県名。たとえば、Utah。

2文字の国コード(C): (オプション) 2文字の国コード。たとえば、US。

- 5 **OK**をクリックして証明書を作成します。

証明書が作成されると、自己署名されます。

- 6 **28 ページの「正式に署名された証明書の取得」**の説明に従って、証明書を正式なものにします。

正式に署名された証明書の取得

- 1 [デジタル証明書] ページで、作成したばかりの証明書を選択し、**File (ファイル) > Certificate Requests (証明書要求) > Generate CSR (CSRの生成)**の順にクリックします。
- 2 Verisignなどの認証局(CA)にデジタル証明書を電子メールで送信するプロセスを完了します。

CAでは証明書署名要求(CSR)を取得し、CSRの情報に基づいて正式な証明書を生成します。その後、CAから新しい証明書と証明書チェーンが電子メールで送信されてきます。

- 3 CAから正式な証明書と証明書チェーンを受け取った後:

3a [デジタル証明書] ページに再アクセスします。

3b **File (ファイル) > Import (インポート) > Trusted Certificate (信頼できる証明書)**をクリックします。CAから受け取った証明書チェーンを参照して、**OK**をクリックします。

3c 自己署名証明書を選択して、**File (ファイル) > Certification Request (証明書要求) > Import CA Reply (CA返信のインポート)**の順にクリックします。

3d 証明書情報の更新に使用する正式な証明書を参照してアップロードします。

[デジタル証明書] ページで、証明書の**Issuer (発行者)**列の名前が、証明書にスタンプしたCAの名前に変更されます。

- 4 **29 ページの「証明書の有効化」**の説明に従って、証明書を有効化します。

既存の証明書とキーペアの使用

既存の証明書とキーペアを使用する場合は、.P12キーペア形式を使用します。

- 1 アプライアンス管理コンソールにvaadminユーザとして[ログイン](#)します。
- 2 [デジタル証明書](#)  をクリックします。
- 3 **Key Store (キーストア)**ドロップダウンメニューで、**JVM Certificates (JVM証明書)**を選択します。
- 4 **File (ファイル) > Import (インポート) > Trusted Certificate (信頼できる証明書)**をクリックします。既存の証明書を参照して選択し、**OK**をクリックします。
- 5 **File (ファイル) > Import (インポート) > Trusted Certificate (信頼できる証明書)**をクリックします。[ステップ 4](#)で選択した証明書に対する既存の証明書チェーンを参照して選択し、**OK**をクリックします。
- 6 **File (ファイル) > Import (インポート) > Key Pair (キーペア)**を順にクリックします。
.P12キーペアファイルを参照して選択し、必要に応じてパスワードを指定して、**OK**をクリックします。
- 7 [29 ページの「証明書の有効化」](#)に進みます。

証明書の有効化

- 1 [\[デジタル証明書\]](#) ページの**Key Store (キーストア)**ドロップダウンメニューで、**Web Application Certificates (Webアプリケーション証明書)**を選択します。
- 2 有効にする証明書を選択して、**Set as Active (有効に設定)**をクリックし、**Yes (はい)**をクリックします。
- 3 証明書を選択して、**View Info (情報を表示)**をクリックすることによって、証明書と証明書チェーンが正しく作成されたことを確認します。
- 4 証明書が正常に有効化されたら、**閉じる**をクリックしてデジタル証明書を終了します。

ファイアウォール

ファイアウォールツールを使用して、アプライアンスから直接現在のファイアウォール設定を表示します。デフォルトでは、アプライアンスで必要なものを除き、すべてのポートがブロックされます。たとえば、アプライアンス管理コンソールのログインページではポート9443を使用するので、このポートはデフォルトで開いています。



注: アプライアンスでシームレスな体験を得るために、ファイアウォール設定でポートをブロックしないようにしてください。詳細については、[9 ページの「ポートとファイアウォール」](#)を参照してください。

アプライアンスのファイアウォール設定を表示するには、次の手順を実行します。

- 1 アプライアンス管理コンソールにvaadminユーザとして[ログイン](#)します。
- 2 **ファイアウォール**  をクリックします。
[ファイアウォール] ページには、ポート番号と、各ポート番号の現在の状態が一覧表示されます。このページは情報提供のみを目的としており、編集はできません。
- 3 **閉じる**をクリックして、[ファイアウォール] ページを終了します。

Gangliaの設定と監視

Gangliaは、アプライアンスに関する重要な情報を収集できるスケーラブルな分散型モニタリングシステムです。監視可能なデフォルトのメトリックは、CPU、ディスク、負荷、メモリ、ネットワーク、およびプロセスです。

- ♦ [30 ページの「Gangliaの設定」](#)
- ♦ [32 ページの「アプライアンス管理コンソールのポート9443 \(セキュア\)を使用したGangliaメトリックの表示」](#)
- ♦ [32 ページの「ポート9080 \(非セキュア\)を使用したGangliaメトリックの直接表示」](#)

Gangliaの設定

Gangliaの設定ツールを使用して、アプライアンスの監視を設定します。Ganglia gmondデーモンでは、通信にUDPポート8649が使用されます。gmetadデーモンでは、メトリクスデータにTCPポート8649が使用されます。ポート9080に対するメトリックの非セキュアHTTP表示を有効または無効にすることもできます。



- 1 アプライアンス管理コンソールにvaadminユーザとして[ログイン](#)します。
- 2 **Gangliaの設定**  をクリックします。
- 3 必要に応じて、次のGangliaの設定オプションを変更します。

サービスの監視

- ♦ **完全なモニタリングサービスを有効にする:** このオプションを選択すると、他のアプライアンスからメトリックを受信して保存したり、Ganglia Webインタフェースをアプライアンスで実行したりすることができます。このオプションはデフォルトで有効になっています。

次のような状況でGangliaモニタリングを無効にしたい場合は、このオプションを選択解除します。

- ♦ アプライアンスに使用する予定のモニタリングシステムがすでにある場合。

- ◆ 監視情報の表示専用のアプライアンスを設定する予定がある場合。
専用のアプライアンスを指定するには、監視オプションで**ユニキャスト**を選択して、監視情報を収集するアプライアンスのDNS名またはIPアドレスを指定します。

監視オプション

- ◆ **このアプライアンスでモニタリングを有効にする:** このオプションを選択すると、このアプライアンスでGangliaモニタリングが有効になります。
- ◆ **マルチキャスト:** このオプションを選択すると、モニタリング情報をネットワーク上の他のアプライアンスに送信できます。このオプションはデフォルトで選択されています。
- ◆ **ユニキャスト: (推奨)** このオプションを選択すると、モニタリング情報を1つの宛先に送信できます。

注: システムのパフォーマンスを向上させる場合は、ユニキャストモードが推奨されます。

Publish to (発行先): ユニキャストモードでの動作時に、Gangliaがモニタリング情報を送信するURLを指定します。

モニタリングツールのオプション

- ◆ **直接httpポート9080アクセスを有効にする:** このオプションを選択すると、次のURLで直接非セキュアhttpプロトコルとポート9080を使用して、Gangliaモニタリングダッシュボードが使用できるようになります。
`http://ptm_dns_server_name:9080/gweb/`
- 4 (オプション)**データベースのリセット**をクリックして、このアプライアンスのGangliaデータベースから既存のGangliaメトリックをすべて削除します。
このオプションは、PlateSpin Transformation Managerデータベースには関連していません。
 - 5 **[OK]** をクリックします。
 - 6 **閉じる**をクリックして、Gangliaの設定を終了します。

アプライアンス管理コンソールのポート9443 (セキュア)を使用したGangliaメトリックの表示

Gangliaモニタリングツールを使用すると、アプライアンス管理コンソールでポート9443を介してGangliaダッシュボードをセキュアに表示することができます。ダッシュボードには、アプライアンスのヘルスと状態のメトリックが表示されます。



- 1 アプライアンス管理コンソールにvaadminユーザとしてログインします。
- 2 Gangliaモニタリング  をクリックします。
Gangliaダッシュボードが、次のWebページに新しいタブで開きます。
`https://ptm_dns_server_name:9443/gweb/`
- 3 情報の確認が済んだら、WebブラウザのGangliaタブを閉じます。

ポート9080 (非セキュア)を使用したGangliaメトリックの直接表示

- 1 モニタリングツールのオプション > 直接httpポート9080アクセスを有効にするが有効になっていることを確認します。
- 2 Webブラウザで、次のURLに移動します。
`http://ptm_dns_server_name:9080/gweb/`
ログインは必要ありません。
- 3 情報の確認が済んだら、Webブラウザを閉じます。

ストレージ

ストレージツールを使用すると、13 ページの「アプライアンスの展開と仮想環境の設定」で作成した、ブートパーティション(ハードディスク1)および/vastorage (仮想アプライアンスストレージ)パーティション(ハードディスク2)に対するストレージ領域を拡張することができます。ログファイル用の別のディスクを作成した場合は、/varパーティションを拡張することもできます。



アプライアンスディスクパーティションのサイズを拡張するには、次の手順を実行します。

- 1 アプライアンス管理コンソールにvaadminユーザとして[ログイン](#)します。
- 2 **ストレージ**  をクリックします。
- 3 仮想化プラットフォームベンダーが提供するツールを使用して、拡張するパーティションが含まれる仮想ディスクを拡張します。
- 4 仮想ディスクテーブルで、拡張するパーティションを選択します。
- 5 **パーティションの拡張** をクリックします。
このアクションにより、アプライアンスのサービスが停止され、選択されたパーティションが各ディスクのサイズに拡張されてから、アプライアンスのサービスが再開されます。
- 6 **アプライアンスを再起動** すると、拡張されたディスクをオペレーティングシステムが検出できるようになります。

/varマウント設定

/varマウント設定ツールを使用すると、/varディレクトリの場所を設定して、アプライアンス上の別のハードディスクに移動したり、リモートNFSディレクトリに移動したりすることができます。デフォルトでは、アプライアンスのシステムイベントがブートパーティション(ハードディスク1)の/varディレクトリにログ記録されます。/varディレクトリがログファイルでいっぱいになり、ブートパーティションが増大する可能性があるため、アプライアンスの別の専用ハードディスク上または専用のリモートNFSディレクトリ上に/varディレクトリを配置することもできます。



/varディレクトリを専用のディスクまたはリモートNFSディレクトリに移動するには、次の手順を実行します。

- 1 VMwarevSphereクライアントを使用して、仮想ディスクを作成し、アプライアンスの仮想マシンに割り当てます。
- 2 アプライアンス管理コンソールにvaadminユーザとして[ログイン](#)します。
- 3 **/varマウント設定**  をクリックします。
- 4 /varディレクトリのハードディスク情報を指定します。
 - ◆ **ディスクの選択:** /varディレクトリを配置するハードディスクを選択します。
 - ◆ **ファイルシステムの種類:** ファイルシステムの種類を指定します。
- 5 **[OK]** をクリックします。

サポート

サポートツールを使用すると、設定情報を[テクニカルサポート \(https://www.netiq.com/support/\)](https://www.netiq.com/support/)に送信することができます。このためには、FTPで直接ファイルをアップロードするか、またはファイルを管理ワークステーションにダウンロードして別の方法で送信します。



設定ファイルをテクニカルサポートに送信するには、次の手順を実行します。

- 1 アプライアンス管理コンソールにvaadminユーザとして[ログイン](#)します。
- 2 サポート  をクリックします。
- 3 次のいずれかの方法を使用して、アプライアンスの設定ファイルを[テクニカル サポート \(https://www.netiq.com/support/\)](#)に送信します。
 - ◆ Automatically send the configuration to Micro Focus using FTP (FTPを使用してMicro Focusに設定を自動送信する)を選択して、設定情報のFTP転送を開始します。
 - ◆ Download and save the configuration file locally, then send it to Micro Focus manually (設定ファイルをローカルにダウンロードして保存してから、手動でMicro Focusに送信する)を選択して、設定情報を管理ワークステーションにダウンロードします。その後、任意の方法を使用して[テクニカルサポート \(https://www.netiq.com/support/\)](#)に情報を送信できます。
- 4 OKをクリックして、プロセスを完了します。

フィールドパッチ

フィールドパッチオプションを使用すると、Transformation Manager Serverソフトウェアのパッチ、インストールされたインスタンスに対するPlateSpin Migrate Connectorソフトウェアのパッチ、およびソフトウェアとオペレーティングシステムのセキュリティパッチを管理できます。新しいパッチのインストール、現在インストールされているパッチの表示、およびパッチのアンインストールを行うことができます。パッチは[Patch Finder Webサイト \(https://dl.netiq.com/patchfinder/\)](https://dl.netiq.com/patchfinder/)からダウンロードできます。



パッチを管理するには、次の手順を実行します。

- 1 アプライアンス管理コンソールにvaadminユーザとして[ログイン](#)します。
- 2 フィールドパッチ  をクリックします。

- 3 (条件付き)ダウンロードしたパッチをインストールします。
 - 3a PlateSpin Transformation Managerパッチファイルを[Patch Finder Webサイト \(https://dl.netiq.com/patch/finder/\)](https://dl.netiq.com/patch/finder/)から管理コンピュータにダウンロードします。
 - 3b ダウンロードしたパッチをインストールしますセクションの [フィールドパッチ] ページで、**Browse (参照)**をクリックします。
 - 3c **ステップ 3a**でダウンロードしたパッチを参照して選択します。
 - 3d **[インストール]** をクリックします。
- 4 (条件付き)パッチをアンインストールします。

一部のパッチをアンインストールできない場合があります。

 - 4a **[フィールドパッチ]** リストの**Patch Name (パッチ名)**列で、アンインストールするパッチを選択します。
 - 4b **最新のパッチのアンインストール**をクリックします。
- 5 (条件付き)パッチのインストールに関する詳細が記載されているログファイルをダウンロードします。
 - 5a 該当するパッチに対して**Download Log File (ログファイルのダウンロード)**をクリックします。
- 6 **[閉じる]** をクリックして、**[フィールドテストパッチ]** ページを終了します。

オンラインアップデート

オンラインアップデートオプションを使用すると、[カスタマーセンター \(https://www.netiq.com/customercenter\)](https://www.netiq.com/customercenter)からのオンラインアップデートサービスに登録することができます。別の方法として、ソフトウェアアップデートのダウンロード元となるローカルSubscription Management Tool (SMT)に登録することも可能です。アップデートを自動または手動でインストールして、アプライアンスをアップデートすることができます。

オンラインアップデートオプションを使用すると、Transformation Manager Serverソフトウェアの製品アップデート、インストールされたインスタンスに対するPlateSpin Migrate Connectorソフトウェアの製品アップデート、およびソフトウェアとオペレーティングシステムのセキュリティアップデートを管理できます。



アップデートチャンネルを有効にするには、製品をアクティベートするために使用したフルライセンスキーを使用します。評価版のキーではチャンネルをアクティベートできません。

オンラインアップデートサービスに登録するには、次の手順を実行します。

- 1 アプライアンス管理コンソールにvaadminユーザとして**ログイン**します。
- 2 **オンラインアップデート**  をクリックします。
- 3 自動的に**[登録]** ダイアログが開かない場合は、**登録タブ**をクリックします。

4 **Service Type (サービスタイプ)**を指定します。

- ◆ ローカルSMT ([ステップ 5](#)に移動します。)
- ◆ カスタマーセンター ([ステップ 6](#)に移動します。)

5 (ローカルSMT) SMTサーバに対して次の情報を指定してから、[ステップ 7](#)に進みます。

- ◆ ホスト名(smt.example.comなど)
- ◆ (オプション) SMTサーバと通信するSSL証明書URL
- ◆ (オプション) ファイルまたはディレクトリのネームスペースパス

6 (カスタマーセンター) このPlateSpin Transformation Manager Applianceの[カスタマーセンター](#) (<https://www.netiq.com/customercenter>)アカウントに関して次の情報を指定します。

- ◆ カスタマーセンターのアカウントの電子メールアドレス
- ◆ アクティベーションキー(製品をアクティベートするために使用したフルライセンスキー)
- ◆ データ送信の許可 (次のいずれかを選択)
 - ◆ ハードウェアプロファイル
 - ◆ オプション情報

7 **[登録]** をクリックします。

アプライアンスがサービスに登録されるのを待機します。

8 メッセージを閉じるには **[OK]** をクリックします。

アプライアンスを登録した後、必要なアップデートのリストを表示したり、インストール済みのアップデートのリストを表示することができます。手動または自動のオプションを使用して、アプライアンスをアップデートできます。

登録後に他のアクションを実行するには、次の手順を実行します。

- ◆ **更新:** **更新**をクリックして、ダウンロードしたアップデートを起動します。
- ◆ **スケジュール:** ダウンロードするアップデートの種類およびライセンスに自動的に同意するかどうかを設定します。

オンラインアップデートをスケジュールするには、次の手順を実行します。

1. **[Schedule (スケジュール)]** タブをクリックします。
 2. アップデートのダウンロード用のスケジュール(**手動**、**毎日**、**毎週**、**毎月**)を選択します。
- ◆ **View Info (情報を表示):** **View Info (情報を表示)**をクリックすると、インストール済みおよびダウンロード済みのソフトウェアアップデートのリストが表示されます。
 - ◆ **更新:** **更新**をクリックすると、アプライアンスのアップデートの状態が再ロードされます。

再起動またはシャットダウン

保守のために、正常なシャットダウンを開始したりアプライアンスを再起動することが必要になる場合があります。アプライアンス管理コンソールのオプションの使用は、hypervisorのVM管理ツールの電源オン/オフの使用よりも優先されます。

- 1 アプライアンス管理コンソールにvaadminユーザとして[ログイン](#)します。
- 2 アプライアンス設定ペインの右上隅で、**再起動またはシャットダウン**をクリックします。

Logout (ログアウト)

セキュリティ上の理由のため、サインアウトを実行して、アプライアンスとの管理をセッションを終了してから、Webブラウザを閉じる必要があります。Webブラウザを閉じると自動的にセッションが停止されます。

アプライアンス管理コンソールからサインアウトするには、次の手順を実行します。

- 1 [アプライアンス管理コンソール] ページの右上隅のユーザ名の横にある、**Logout (ログアウト)**をクリックします。
- 2 Webブラウザを閉じます。

4 PlateSpin Transformation Manager Serverの設定

PlateSpin Transformation Manager Applianceには、ホストしているPlateSpin Transformation Manager Serverを管理するための追加のツールが用意されています。



PlateSpin Transformation Managerツールにアクセスするには、次の手順を実行します。

- 1 Webブラウザで、ポート番号9443のアプライアンスに対してDNS名またはIPアドレスを指定します。次に例を示します。
`https://10.10.10.1:9443`
または
`https://ptm.example.com:9443`
- 2 アプライアンスの管理ユーザ名とパスワードを指定し、**Sign in (サインイン)**をクリックします。デフォルトのユーザは、vaadminまたはrootです。
- 3 **PlateSpin Transformation Manager**ツールで、**Configuration (設定)**  をクリックします。
- 4 (条件付き)アプライアンス管理コンソールでは、規定された条件が検出されると、次のPlateSpin Transformation Managerツールが自動的に表示されます。
 - ♦ **初期設定:** PlateSpin Transformation Manager Serverの設定が行われていない場合には、**初期設定**ツールが起動されます。アプライアンスまたはPlateSpin Transformation Manager Serverを管理するには、初期設定を完了する必要があります。
 - ♦ **アップグレード:** PlateSpin Transformation Manager用のRPMファイルまたはゲストオペレーティングシステムがアップグレードされている場合には、**アップグレード**ツールが起動されます。アプライアンスまたはPlateSpin Transformation Manager Serverを管理するには、アップグレードを完了する必要があります。
- 5 PlateSpin Transformation Manager Serverツールの使用を続けます。

[PlateSpin Transformation Managerツール] ページには、次のオプションが表示されます。

- ♦ 40 ページの「初期設定」
- ♦ 41 ページの「管理ユーザ」
- ♦ 42 ページの「Webサーバ設定」
- ♦ 42 ページの「アップグレード」
- ♦ 43 ページの「Webインタフェースセッションのタイムアウト」

初期設定

PlateSpin Transformation Manager Serverを設定したり再設定したりすることができます。[管理ユーザ](#)ツールおよび[Webサーバ設定](#)ツールを使用して、データを失うことなくアプリケーションの設定を変更できます。

注: 再設定を行うと、PlateSpin Transformation Managerアプリケーションとその PostgreSQL データベースが初期状態に戻されます。データはすべて失われます。

- 1 アプライアンス管理コンソールにvaadminユーザとして[ログイン](#)します。
- 2 **PlateSpin Transformation Manager**ツールで、**Configuration (設定)**  をクリックします。
- 3 [PlateSpin Transformation Manager Configuration (PlateSpin Transformation Manager設定)] ページで、**初期設定**を選択します。
- 4 次のいずれか1つを選択します。
 - ◆ **サーバの設定:** このオプションは、PlateSpin Transformation Managerアプリケーションが設定されていない場合に使用できます。
 - ◆ **設定の上書き:** このオプションは、PlateSpin Transformation Managerアプリケーションがすでに設定されている場合に使用できます。既存の設定を上書きしてすべてのプロジェクトデータを削除したい場合にのみ、このオプションを選択してください。
- 5 設定情報を入力します。

5a PostgreSQL データベース接続

次のいずれかのオプションを使用します。

- ◆ **ローカルデータベース:** PlateSpin Transformation Managerにより、自動的にアプライアンスにPostgreSQLデータベースがプレインストールされます。[Auto Setup Local Database \(ローカルデータベースの自動設定\)](#)を選択すると、データベースインスタンス、データベース管理者ユーザ、およびユーザのパスワードが自動的に作成されます。[表 4-1](#)にデフォルト設定を示します。

表 4-1 PostgreSQL データベースのデフォルト値

パラメータ	デフォルト値
データベースホスト	localhost
データベースポート	5432
Create a New Database (新しいデータベースの作成)	Selected(選択済み)
データベース名	transmgr
データベースユーザ名	tmadmin

- ◆ **リモートデータベース:** もう1つの方法として、ネットワーク内の既存の PostgreSQL データベース上でデータベースインスタンスとしてPlateSpin Transformation Managerデータベースを設定することもできます。
 1. [Auto Setup Local Database \(ローカルデータベースの自動設定\)](#)を選択解除します。

2. localhostを、リモートPostgreSQLデータベースに対するホストサーバのDNS名またはIPアドレスに置き換えて、PostgreSQLポートを指定します。
3. PlateSpin Transformation Managerデータベースのインスタンスを新規作成するのに必要なスキーマ権限を持っている、データベース管理者ユーザの資格情報を指定します。
4. PlateSpin Transformation Managerデータベースインスタンスの名前を指定します(デフォルト: transmgr)。
5. PlateSpin Transformation Managerデータベースインスタンスに対する管理者ユーザ(デフォルト: tadmin)として作成される、データベースユーザのユーザ名とパスワードを指定します。

5b 初期ユーザ設定

PlateSpin Transformation Manager Serverの初期ユーザは、Webインタフェース全体の設定と管理に対するすべての権限を持っている、システム管理者です。

フルネーム、PlateSpin Transformation Manager環境に対して一意の有効な電子メールアドレス、およびこのユーザのパスワードを指定します。

このユーザをアプライアンス管理コンソールから削除することはできません。初期ユーザアカウントを差し替えたり増やすことが必要になる場合は、PlateSpin Transformation Managerに対して別のシステム管理者ユーザを追加することができます。[管理ユーザ](#)を参照してください。

注: 他のユーザの追加や管理は、PlateSpin Transformation Manager Webインタフェースの [Users (ユーザ)] ページで行います。『[PlateSpin Transformation Manager ユーザガイド](#)』の「[ユーザの管理](#)」を参照してください。

5c Webサーバ設定

Micro Focusでは、Webインタフェースへのアクセスにはセキュアなポート8183およびSSLのオプションを使用することをお勧めします。HTTPポート8182を有効にしたり、無効にして非セキュアなトラフィックを許可することができます。

PlateSpin Transformation Manager Serverに対してDNS名を指定します。アプライアンスのSSL証明書の件名として使用されるDNSアドレスが自動的に入力されます。

6 [送信](#)をクリックします。

管理ユーザ

初期のユーザ名およびパスワードを忘れた場合、またはその初期ユーザを使用してサーバを管理できなくなった場合、新しいシステム管理者のユーザをPlateSpin Transformation Manager Serverに追加する必要がある場合があります。新しいユーザには、インストール時にPlateSpin Transformation Manager Webインタフェースに対して作成されたデフォルトのシステム管理者ユーザと同じグローバル特権が付与されます。

注: デフォルトのシステム管理者は、Webインタフェースで、追加のユーザを設定して、管理者グループに割り当てることができます。管理者グループのメンバーには、Webインタフェースでグローバル許可も付与されます。

- 1 アプライアンス管理コンソールにvaadminユーザとして[ログイン](#)します。
- 2 **PlateSpin Transformation Manager**ツールで、**Configuration (設定)**  をクリックします。
- 3 [PlateSpin Transformation Manager Configuration (PlateSpin Transformation Manager設定)] ページで、**Administrative Users (管理ユーザ)**を選択します。
- 4 フルネーム、PlateSpin Transformation Manager環境に対して一意の有効な電子メールアドレス、およびこのユーザのパスワードを指定します。
- 5 **送信**をクリックします。

Webサーバ設定

PlateSpin Transformation Manager Applianceの管理ユーザは、Webインタフェースに対してJetty WebServer HTTPSおよびHTTPポートを再設定することができます。

- 1 アプライアンス管理コンソールにvaadminユーザとして[ログイン](#)します。
- 2 **PlateSpin Transformation Manager**ツールで、**Configuration (設定)**  をクリックします。
- 3 [PlateSpin Transformation Manager Configuration (PlateSpin Transformation Manager設定)] ページで、**Web Server Configuration (Webサーバ設定)**を選択します。
- 4 WebConsole HTTPSポートには、PlateSpin Transformation Manager WebインタフェースとのセキュアなSSL接続のために使用するポートを指定します。デフォルトポートは8183です。
- 5 (オプション、非推奨) [Enable HTTP (HTTPの有効化)] を選択すると、ポート8182を介してPlateSpin Transformation Manager Webインタフェースにアクセスし、非セキュアな接続が可能になります。
- 6 **送信**をクリックします。

アップグレード

アップグレードオプションは、PlateSpin Transformation Managerまたはゲストオペレーティングシステム用のRPMファイルがアップグレードされていることが検出された場合に、使用可能です。アプライアンス管理コンソールにログインした後、アプライアンスまたはPlateSpin Transformation Manager Serverを管理するには、アップグレードを完了させる必要があります。

- 1 (オプション、推奨) アプライアンス管理コンソールからログアウトして、PlateSpin Transformation Managerデータベースをバックアップしてから、再度アプライアンス管理コンソールにログインします。
- 2 [アップグレード] ページにリダイレクトされたら、**Complete Upgrade (アップグレードの完了)** をクリックします。
アップグレードを行うと自動的に、PlateSpin Transformation ManagerサービスとPTM用のPlateSpin Migrate Connectorが開始されます。

Webインタフェースセッションのタイムアウト

PlateSpin Transformation Manager Webインタフェースのユーザセッションは、デフォルトでは、ブラウザを使用しない時間が30分続くとタイムアウトします。Webインタフェースセッションのタイムアウト間隔は、`/opt/microfocus/ps_transform_mgr/config/system.properties`ファイルの`tm.session.timeout.minutes`プロパティで設定可能です。このファイルでプロパティを指定しない場合、セッションのタイムアウトは30分にデフォルト設定されます。

- 1 アプライアンスVM上でSSHサービスを有効化します。
詳細については、[26 ページの「SSHサービスの有効化または無効化」](#)を参照してください。
- 2 アプライアンスVMでSSHセッションを開始し、次にvaadminユーザまたはrootユーザとしてログインします。
- 3 `/opt/microfocus/ps_transform_mgr/config/`ディレクトリに移動します。
- 4 `system.properties`ファイルをテキストエディタで開きます。
- 5 `tm.session.timeout.minutes`プロパティを追加し、Webインタフェースセッションでブラウザが使用されなくなってからタイムアウトするまでの時間を分単位で設定します。
- 6 ファイルを保存して、テキストエディタを終了します。
- 7 PlateSpin Transformation Managerサービスを再開すると、Webインタフェースセッションのタイムアウト値が有効になります。
SSHセッションでは、端末コンソールで次のコマンドを入力します。

```
rcps_transform_mgr restart
```
- 8 SSHセッションを終了します。
- 9 (オプション) アプライアンスVM上でSSHサービスを無効化します。
詳細については、[26 ページの「SSHサービスの有効化または無効化」](#)を参照してください。

5 Webインタフェースに対するカスタムUIテーマの設定

PlateSpin Transformation Managerでは、Webインタフェースに対するカスタムの外観を作成することができます。デフォルトのテーマファイルを新しいディレクトリにコピーし、必要に応じてファイルをカスタマイズしてから、Webインタフェースの環境設定ファイルでカスタムのテーマの場所を指示します。

PlateSpin Transformation Managerには、Webインタフェースのテーマ用に2つの重要な設定可能コンポーネントが用意されています。

- ◆ **テーマフォルダ:** `/vastorage/ptm/themes/<your_theme_directory>/`
 - ◆ **色の変数:** カスタムCSSファイルでは約20色が定義されており、その派生色とともに、Webインタフェース全体を通して、テキスト、タイトル、下線、ボタン、シェーディングなどの約80パーセントに影響を与えます。ビジネスに合うように色の定義を変更して配色することができます。
 - ◆ **イメージ:** 設定、ダッシュボード、リソース、プロジェクト、ユーザ、およびワークロードに対して表示されるアイコンに関連するさまざまなイメージを置き換えることができます。
- ◆ **テーマ設定ファイル:** `/etc/opt/microfocus/ps_transform_mgr/config/transformationmanager-themes.cfg`
 - ◆ **製品名:** Webインタフェースに表示される完全な製品名と略称を指定することができます。
 - ◆ **テーマ:** デフォルトのTransformationManagerテーマディレクトリを指定したり、カスタムテーマディレクトリを指定することができます。

カスタムテーマを設定するには、次の手順を使用します。

- ◆ [45 ページの「カスタムテーマの設定」](#)
- ◆ [47 ページの「アップグレード後のカスタムテーマのリセット」](#)

カスタムテーマの設定

PTM Webインタフェースに対するカスタムテーマを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 アプライアンス上でSSHサービスを有効化します。
 - 1a アプライアンス管理コンソールにvaadminユーザとしてログインします。
 - 1b **［システムサービス］** をクリックします。
 - 1c SSHサービスを選択します。
 - 1d **アクション > 開始** の順に選択します。
 - 1e **閉じる** をクリックして、システムサービスを終了します。
- 2 SSHセッションを開始して、ユーザアプライアンスにvaadminユーザとしてログインします。

- 3 カスタムテーマファイルを設定します。
 - 3a /vastorage/ptm/themes/ディレクトリに移動します。
 - 3b themesの下にカスタムテーマ用のサブディレクトリ(MyCompanyThemeなど)を作成します。
 - 3c /vastorage/ptm/themes/TransformationManagerディレクトリの内容を新しいテーマディレクトリ(/vastorage/ptm/themes/MyCompanyTheme)にコピーします。
 - 3d カスタムテーマディレクトリで、色の変数用のカスタムCSSファイルをアップデートします。
`/vastorage/ptm/themes/<your_theme_directory>/en/web/theme_variables.tmcss`
 - 3e カスタムテーマディレクトリで、必要に応じてイメージファイルを変更し、PTM Webインタフェースに対するカスタムテーマを定義します。
- 4 カスタム設定を使用してtransformationmanager-themes.cfgファイルを変更します。
 - 4a テキストエディターで/etc/opt/microfocus/ps_transform_mgr/config/transformationmanager-themes.cfgファイルを開きます。
 - 4b server.themeディレクティブを変更して、TransformationManagerテーマをカスタムテーマMyCompanyTheme1に置き換えます。
 たとえば、次のような行があるとします。
`server.theme=TransformationManager`
 次のように変更されました。
`server.theme=MyCompanyTheme`
 - 4c (オプション)製品名を指定する行を変更します。
`server.productname=<span>PlateSpin</span> Transformation Manager`
`server.shortproductname=Transformation Manager`
 - 4d 変更を保存します。
- 5 PlateSpin Transformation Managerサービスを再開すると、テーマの変更が有効になります。
 次のいずれかの操作を行います。
 - ◆ SSHセッションでは、端末コンソールで次のコマンドを入力します。
`rcps_transform_mgr restart`
 - ◆ アプライアンス管理コンソールにログインして、**システムサービス**をクリックし、PlateSpin Transformation Manager (ps_transform_mgr)を選択してから、**アクション > 再開**の順に選択します。
- 6 PTM Webインタフェースにログインして、UIの変更を確認します。
 追加の変更を行うには、アプライアンスに戻り、必要に応じてカスタムテーマファイルをアップデートします。サービスを再開すると変更内容が適用されます。
- 7 テーマの変更が完了したら、SSHセッションを終了します。
- 8 SSHサービスを無効化します。
 - 8a vaadminユーザとしてアプライアンス管理コンソールにログインし、**システムサービス**をクリックします。
 - 8b SSHサービスを選択します。
 - 8c **アクション > 中止**の順に選択します。

8d **閉じる**をクリックして、システムサービスを終了します。

8e アプライアンス管理コンソールからログアウトし、Webブラウザを閉じます。

アップグレード後のカスタムテーマのリセット

アプライアンスのアップデートではカスタムテーマディレクトリは無視されますが、デフォルトテーマの場所内にあるファイルはアップデートされます。アップグレードまたはアップデートの後、テーマが引き続き有効であることを確認し、必要に応じてテーマファイルを手動でアップデートする必要があります。

パッチまたはオンラインアップデートの後、手動でテーマをアップデートします。

1 アプライアンス上でSSHサービスを有効化します。

1a vaadminユーザとしてアプライアンス管理コンソールにログインし、**システムサービス**をクリックします。

1b SSHサービスを選択します。

1c **アクション > 開始**の順に選択します。

1d **閉じる**をクリックして、システムサービスを終了します。

2 SSHセッションを開始して、アプライアンスにvaadminユーザとしてログインします。

3 /vastorage/ptm/themes/TransformationManagerディレクトリに移動します。

4 TransformationManagerの場所を変更したCSSとイメージファイルの最新バージョンを作業場所にコピーします。

5 カスタム設定をこれらの新しいファイルにマージします。

6 アップデートされたファイルを、作成したテーマディレクトリ(/vastorage/ptm/themes/MyCompanyTheme)にコピーします。

7 PlateSpin Transformation Managerサービスを再開すると、テーマの変更が有効になります。

次のいずれかの操作を行います。

- ◆ SSHセッションでは、端末コンソールで次のコマンドを入力します。

```
rcps_transform_mgr restart
```

- ◆ アプライアンス管理コンソールにログインして、**システムサービス**をクリックし、PlateSpin Transformation Manager (ps_transform_mgr)を選択してから、**アクション > 再開**の順に選択します。

8 PTM Webインターフェースにログインして、UIの変更を確認します。

追加の変更を行うには、アプライアンスに戻り、必要に応じてカスタムテーマファイルをアップデートします。サービスを再開すると変更内容が適用されます。

9 テーマの変更が完了したら、SSHセッションを終了します。

10 SSHサービスを無効化します。

10a vaadminユーザとしてアプライアンス管理コンソールにログインし、**システムサービス**をクリックします。

10b SSHサービスを選択します。

10c **アクション > 中止**の順に選択します。

10d **閉じる**をクリックして、システムサービスを終了します。

10e アプライアンス管理コンソールからログアウトし、Webブラウザを閉じます。